

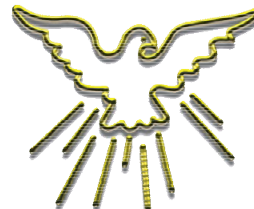


# 真イエス教会

—東京・墨田教会

## 教会報

2002年7月号



東京教会：埼玉県所沢市上安松 341-1 TEL/FAX：042-994-8336

ホームページ：<http://www.tjctokyo.com>

E.メール：[tokyo@tjc.org](mailto:tokyo@tjc.org)

墨田教会：東京都墨田区東墨田 1-5-10 TEL/FAX：03-3619-7233

## 2002年霊恩伝道会報告

東京、墨田両教会はゴールデンウィークの連休を利用して、墨田教会において合同霊恩伝道会を開催いたしました。5月3～4日は伝道会、5月5～6日は霊恩会を開き、更に教会の要請によって4月28日、29日には宗教教育教員のための講習会が開かれました。連合総会は黄誌新伝道者、侯恩源長老、邵従命長老を派遣して下さい、この聖会に協力して下さいました。

黄伝道者は28日、29日に開かれた教員講習会では、教員の自覚、心得、責任について等多くをご伝授して下さい、教員一同は新たなる決意を固めて宗教教育に臨むように励まして下さいました。また伝道会においては「生、老、病、死」と「志を立てて主に従う」の二つのテーマを用いて私たちに人の一生は短く、儚い、また多くの労苦と患難に見舞われる。しかし私たち主に出会い、主の御許に立ち返り、主に従うべきだと励まして下さいました。そして侯長老は「安息日を守れ」、「従順であれ」、「神の子となれ」の三つのテーマで神様が定められた安息日を守り、共に御名を賛美し、従順な心を持って、聖潔な神の子となるように励まして下さいました。

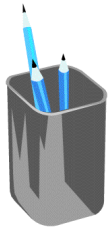
主の御恵みに感謝いたします。5月4日墨田教会において執事立職式が行われ、木下先義兄弟、木下文子姉妹が執事に就きました。聖職名は木下先義執事、木下ルデヤ執事であります。どうか神様が二人の執事を見守り、教会の更なる発展へと導いて下さいますように。

今回の霊恩伝道会では、阿部みねよ姉妹、陳佳怡姉妹、林斉平兄弟の3名がバプテスマを受け、キリストの者となりました。また姚成喜兄弟、邱娟姉妹の2名が聖霊を受け、128名が聖餐をいただき、感謝献金は803,550円でした。期間中、両教会はきれいな歌声を持って聖会のために感謝と賛美を捧げました。仙台の阿部一家、留学生の柯依芸姉妹、及び茨城に住んでいる韓国の金銀京姉妹夫妻も今度の聖会に参加して下さいました。どうか、すべての栄光が主の御名に帰せられますように。

今回の霊恩伝道会を通して、兄弟姉妹たちは神の御恵みをいただき、聖霊に満たされ、共に天国の道を歩むよう力付けられました。

木下 直樹

## 2002年霊恩伝道会感想



初夏に入り、仙台の町はもう新緑に色づいてきた。北の国の四季はこんなにもはっきりしている。南から来た私にとっては、これほど素晴らしく、美しい自然の景色にいつも驚くばかりである。交換留学生として、台湾から仙台に来てから、もう半年を超える。今住んでいる町は教会から遠く離れているので、ただ長い休暇を利用して東京へ集会を参加しに行くことしかできない。今年の四月末のゴールデンウィークに、恒例の特別伝道会及び講習会が行われた。私も予定したとおりに参加でき、遠いところから来られた長老や伝道者の教えが受け入れられたことを神様に感謝する。

前半の講習会は宗教教育の教員を中心として、黄誌新伝道者に“教員として果たすべき職責”と“演じるべき役割”を釈明して頂いた。主の小羊を養う重責を負う教員は、師父であり、牧人であり、保母である。聖書にあるように、“子供をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。”(箴言22:6)ここで言ういわゆる“行くべき道”について、伝道者は次の四つのポイントを指した。即ち、主を恐れ、行いを慎み、奉仕をし、神様に感謝することである。無邪気な子供たちに対して、教員の訓話よりも実際の行動のほうが大切である。特に伝道者は自分が子供の頃感じたことを例として挙げて、教員の悪い行為は子供に大きな影響を与えるばかりか、さらに、子供の信仰までも誤ることを強調した。よく、教員が思わず発した言葉を、いつの間にか子供が模倣することがある。台湾にいたとき、私も何年か教員を担当したことがあった。当時教えた小学生はもう高校生になり、長い時間ふるさとに帰っていないため、彼らの世話を続けられないでいる。

どうか神様が引き継ぎ彼らの道を導いてくださるよう。主はかつてペテロに“わたし的小羊を飼いなさい。”(ヨハネ21:15)と言われた。願わくは、この奉仕の仕事において、より

多くの兄弟姉妹が子供たちに関心を寄せ、代々続けていけるように…。

後半の特別伝道会で、伝道者に“生、老、病、死”というテーマで、励ましの言葉を頂き、侯長老も“神が人の為に安息日を与えた”、“神の子となれ”、“従順な子となれ”などのテーマで導かれ、神様の子として私たちは、神様の無限の愛に対して、どう反応すればいいのだろうかと考えさせられた。しばらく安息日を参加できなかった私は、長老と伝道者の教えを頂いて、喜んだり、恥ずかしく思ったりした。喜んだのは、乾いた心にやっと潤いを得、疲れた精神も奮い立たされた為であり、恥ずかしかったのは、普段神様と交わる時間が少なく、主のためにどんな志を立てるのかまだ決まっていないうえ、本当に主に対して恥ずかしくて面と向かえないと思ったからである。去年、霊恩会が行われたとき、呉執事のある励ましの言葉が、ずっと脳裏に焼き付いている。執事は私たちに、なぜ神様は我々をここに置いたのか？主のために自分が出来る事は何か？と考えさせた。まさに、私が異国の地に来ることは、以前は思いもつかなかったことである。大勢の人々がいる中で、どうして神様は私を選んだのだろうか？どうして私なのか？

どうして私が日本にいるのか？神様の器として、私は使われる事があるだろうか？

寒い冬が過ぎ、春も去って、夏にはもう帰国する私は、将来の進路もまだ分からないので、今私にできる事は自分を準備することと、主に頼ることだけである。聖書に書いてあるように、“人は心に自分の道を考え計る、しかし、その歩みを導く者は主である。(箴言16:9)”一年間というこの貴重な留学生活がまもなく終わるが、どうか神様が引き続き私の歩みを導いて、神様に使われる器になれるように…。また、願わくは神様が日本の教会に祝福をくださるように…。

# 教義講座コラム

- |            |            |            |              |
|------------|------------|------------|--------------|
| 1. イエスを信じる | 2. 聖書を信じる  | 3. 教会を信じる  | 4. バプテスマを信じる |
| 5. 聖霊を信じる  | 6. 洗足式を信じる | 7. 聖餐式を信じる | 8. 安息日を信じる   |
| 9. 救いを信じる  | 10. 裁きを信じる |            |              |

8 安息日(土曜日)が主から賜った祝福の日であることを信じる。また、恵みの中で神の創造と救いを記念し、将来の永遠の安息を待ち望む。

(一) 安息日(土曜日)は神から祝福された日

1. 神は六日をもって万物を創造され、七日目(土曜日)に休まれた

「こうして天と地とその万象とが完成した。神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終わって第七日に休まれた。神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終わって休まれたからである。」(創2:1~3)。

2. 神はこの日を聖とし、祝福された

「神はその第七日を祝福して、これを聖別された。」(創2:3)。十戒より「安息日を覚えて、これを聖とせよ。主は六日のうちに、天と地と海と、その中の全てのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。」(出エジ20:8、11)。

3. この日に人を休ませ、特別に彼らに食物を賜った

モーセは彼らに言った、「主の語られたのはこうである。「あすは主の聖安息日で休みである。きょう、焼こうとするものを焼き、煮ようとするものを煮なさい。残ったもの(マナ)はみな朝までたくわえて保存しなさい」と。彼らはモーセの命じたように、それを朝まで保存したが、臭くならず、また虫もつかなかった。モーセは言った、「きょう、それを食べなさい。きょうは主の安息日であるから、きょうは野でそれを獲られないであろう。六日の間はそれを集めなければならない。七日目は安息日であるから、その日には無いであろう。」ところが民のうちには、七日目に出て(マナを)集めようとした者があったが、獲られなかった(出エジ16:23~27)。神はイスラエル人に、荒野の旅路で毎朝マナを降らせて彼らの食物とさせた。しかし、第七日の安息日にはマナを降らせなかった。それは、この日に人を休ませる為であったので、マナを集めようとした人がいたけれども、集まらなかった。また、神は第六日に集めたマナを翌日まで残しても臭くさせず、虫もつかせなかった。これは、普段と違う状況であった。

4. 安息日を守る者には、真の神からの祝福を得る

「もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う。」これは主の口から語られたものである。」(イザ58:13~14)。「安息日を守って、これを汚さず、その手をおさえて、悪しき事をせず、このように行う人、これを堅く守る人の子はさいわいである。」(イザ56:2)。

5. 安息日を守らない人には災いが起こる

神は言った、「もしあなたがわたしに聞き従わないで、安息

日を聖別して守ることをせず、安息日に荷を携えてエルサレムの門に入るならば、わたしは火をその門の中に燃やして、エルサレムのもろもろの宮殿を焼き滅ぼす。その火は消えることがない。」(エレ17:27)。ネヘミヤ預言者はユダの貴い人々を責めて言った、「あなた方はなぜこの悪事を行って、安息日を汚すのか。あなた方の先祖も、このように行ったので、われわれの神はこのすべての災いをわれわれとこの町に下されたではないか。ところがあなたがたは安息日を汚して、さらに大いなる怒りをイスラエルの上に招くのである。」(ネヘ13:17~18)。

(二) 恵みの中で、神の創造と救いを記念する

1. ユダヤ人は律法の下で安息日を守った

a. この日に火をたいてはならない

「安息日にはあなた方の住まいのどこでも火をたいてはならない」(出エジ35:3)。

b. 如何なる仕事をもしてはならない

「六日のあいだは仕事をしなさい。七日目は全き休みの安息日で、主のために聖である。すべて安息日に仕事をする者は必ず殺されるであろう。故に、イスラエルの人々は安息日を覚え、永遠の契約として、代々安息日を守らなければならない。」(出エジ31:15~16)。

c. 聖日を汚す者は必ず殺される

神はモーセに、イスラエル人に命じるようこう言われた、「あなた方は安息日を守らなければならない。これはあなた方に聖なる日である。すべてこれを汚す者は必ず殺され、すべてこの日に仕事をする者は、民のうちから断たれるであろう。」(出エジ31:14)。

イスラエルの人々が荒野におる時、安息日にひとりの人が、たきぎを集めるのを見た。そのたきぎを集めるのを見た人々は、その人をモーセとアロン、および全会衆のもとに連れてきた。…そのとき、主はモーセに言われた、「その人は必ず殺されなければならない。全会衆は宿営の外で、彼を石で撃ち殺さなければならない。」(民15:32~36)。

2. 新約時代の信者は恵みの中で安息日を守る

a. 安息日に聖なる事を行っても良い

イエスは言った、「もし、モーセの律法が破られないように、安息日であっても割礼を受けるのなら、安息日に人の全身を丈夫にしてやったからといって、どうして、そんなに怒るのか。うわべで人をさばかないで、正しいさばきをするがよい。」(ヨハ7:23~24)。「安息日に宮仕えをしている祭司たちは安息日を破っても罪にはならないことを、律法で読んだことがないのか。」(マタ12:5)。

b. 安息日に善を行っても良い

イエスは言った、「あなた方のうちに、一匹の羊を持っている人があるとして、もしそれが安息日に穴に落ち込んだなら、手を掛けて引き上げてやらないだろうか。人は羊よりも、は

るかにすぐれているのではないか。だから、安息日に良いことをするのは、正しいことである。」(マタ12:11~12)。

#### c. 安息日に人を救っても良い

イエスは片手のなえた人に言った、「立って、中へ出てきなさい。」また、人々に向かって「安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか。」と言われた。彼らは黙っていた。イエスは怒りを含んで彼らを見回し、その心の頑ななのを嘆いて、その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。そこで手を伸ばすと、その手は元どおりになった(マル3:3~5)。このように、安息日に善を行って人を救ってもよい。

#### d. どうしても守れない時に、神は憐れんで下さる

ある安息日に、イエスは麦畑の中を通られた。すると弟子たちは、空腹であったので、穂を摘んで食べ始めた。パリサイ人たちがこれを見て、イエスに言った、「ごらんください。あなたの弟子たちが安息日にしてはならないことをしています。」そこでイエスは彼らに言われた、「あなた方は、ダビデとその共の者たちが飢えたとき(サム上26:1~6)、ダビデが何をしたら読んだことがないのか？すなわち、神の家に入って、祭司たちのほか、自分も共の者たちも食べてはならぬ供えのパンを食べたのである。…“わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない”とはどういう意味か知っていたなら、あなた方は罪のない者をとがめなかったであろう。人の子は安息日の主である。」(マタ12:1~8)。このように、どうしても安息日が守れない時でも、神は憐れんで下さる。

#### e. 喜びの心をもって聖日を記念する

「もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び…おのが道を行わず…あなたは主によって喜びを得る。…これは主の口から語られたものである。」(イザ58:13~14)。故

に、喜びの心をもって聖日を記念して守るべきである。

#### (三) 永遠の安息を待ち望む

##### 1. 苦悩に満ちた現在

神の人モーセは言った、「われらのよわいは七十年にすぎません。あるいは健やかであっても八十年でしょう。しかしその一生はただ、ほねおりと悩みであって、その過ぎ行くことは速く、われらは飛び去るのです。」(詩90:10)。

##### 2. クリスマンが待ち望む将来の幸せ

パウロは言った、「だから、私たちは落胆しない。たとい私たちの外なる人は滅びても、うちなる人は日ごとに新しくされていく。なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりに私たちに得させるからである。わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くのである。」(IIコリ4:16~18)。故に、「もし私たちが、この世の生活でキリストにあって単なる望みを抱いているだけだとすれば、私たちは、全ての人の中で最も哀れむべき存在となる。」(Iコリ15:19)。信者が望んでいることは、目に見えない永遠に至る栄光の天国である。

##### 3. 努力して天国へ入り永遠の安息を得る

「こういうわけで、安息日の休みが、神の民のためにまだ残されているのである。なぜなら、神の安息に入った者は、神がみわざをやめて休まれたように、自分もわざを休んだからである。従って、私たちは、この安息に入るように努力しようではないか。そうでないと、同じような不従順の悪例にならって、落ちて行く者が出るかもしれない。」(ヘブ4:9~11)。クリスマンが追い求めるものは“もう一つの安息”、即ち、将来の永遠の安息である。それは、永遠の栄光なる命であって、この上なくすばらしい天国に入り、キリストと共に住んで栄光を共にするのである。

## 教義問答 — 安息日

**問：**新約時代に生きる人は恵みによって救われた以上、戒めを守らなくてもよい。この説は正しいか？

**答：**安息日を反対する人は言う：「旧約律法の時代は過ぎ去り、新約時代の人は恵みの下、律法の上にある。また信仰によって義とされ(ロマ2:22、5:1;ピリ3:9;ガラ2:16)、主の大きい救いによって救われるのであって(エペ2:8;テト3:5)、律法を行い、戒めを守ることによって救われるのではない。律法によって義とされようとするなら、キリストから離れてしまっている。恵みから落ちている(ガラ5:4);だから、新約時代の信者は戒めを守らなくてもよい。」この理論にも一理があるように見えるが、「信仰によって律法を廃棄した」危険性もある(ロマ3:31)。新約時代は恵みによって救われたからと言って、姦淫、殺人と親不孝をしてもよいのか？主ははっきり、「もし命に入りたいと思うなら、戒めを守りなさい」(マタ19:17、19)と言われた。パウロも言った、「割礼があってもなくても、それは問題ではない。大事なものは、ただ神の戒めを守ることである」(Iコリ7:19)。主イエスは我々に恵みに

よって救われるには戒めを守らなくてもよいと教えられたのか？また、パウロは信仰によって義とされたから戒めを廃棄したと言ったのか？新約時代の人は律法の下ではなく、恵みの下にあるからと言って、罪を犯してもよいのか？断じてそうではない(ロマ6:15)。「信仰によって義とされた」、「恵みによって救われた」と神の戒めを守るとはイエスを信じ、永遠の命を得ることと矛盾するところはない。イエス様は限りのない恵みとまこと(ヨハ1:14)この世にもたらし、その御恵みによって、「私たちを責めて不利におとしいる証書をその規定もろとろぬり消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた」(コロ2:14)、「前の戒めが弱くかつ無益であったために無効になった」(ヘブ7:18)、私たちは神の恵みにあって、神を愛し、人を愛するを含む十の戒めを守ったことによって(マル12:30、31)、制限や苦痛がなく、喜びに満ちた、本当の自由と祝福された安息日の恵みを得たのである。だから、恵みによって救われ、信仰によって義とされることは大事だが、神の戒めも軽んじてはならない。自由を取り違ったために道徳性のある十の戒めを廃棄し、永遠の命をなくさないように。

**問：**「コロサイ人への手紙」の第二章 16、17 節には安息日は影であって、予表であると言っている。本体であるキリストはすでに来た以上、安息日を守らなくてもよい。この説は正しいか？

**答：**聖句：「神は、私たちを責めて不利におとしいる証書を、その規定もろもろぬり消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた。…だから、あなたがたは、食物や飲み物につき、あるいは祭や新月や安息日などについて、だれにも批評されてはならない。これらは、きたるべきものの影であって、その本体はキリストである。」(コロ 2:14~17)。このほか、似た箇所は「エペ 2:15」にもある。この二カ所の聖句は私たちに一つの答えを得られる。この問題に答える前、まずここで言う安息日の種類とは何か？毎週に来る安息日なのか？祭の安息の日なのか？この二カ所の聖句の内容を見ると、祭の安息の日を指していることが分かる。レビ記二十三章には祭りの安息の日が多く書かれている。例えば：

ラッパを吹き鳴らす安息の日は七月一日である(レビ 23:23~25; 民 29:1)。

贖罪の安息の日は七月十日である(レビ 23:26~32)。

仮庵の安息の日は七月十五日(レビ 23:35)。

七月二十二日である(レビ 23:36)。

これら安息の日は「主の安息日」のほかに属する(レビ 23:38)ものである。では、「コロ 2:16」の安息日は祭の安息日を指しているには二つの原因がある：

1. 安息日は原文と英文では複数形で表現している。即ち、「これらの安息日」であって、多くの祭の安息日を指していることが分かる。
2. 14 節は「規定に書かれたもの」とはっきり説明している。「エペ 2:15」は「数々の規定から成っている戒めの律法」だから、「コロ 2:17」はこれら祭の安息日は、「きたるべきものの影」であって、キリストは十字架の恵みを通して廃棄し、十字架につけてしまったのである。だから、これらの安息日について、私たちは守らなくてもよい。しかし、神の安息日は永遠に存在するものであり、神を愛し、人を愛する大本であり廃棄してはならず、永遠に記念し、守るべきものである。

**問：**パウロは「ガラテヤ人への手紙」の第四章 10 節には「あなたがたは日や月や季節や年などを守っている…あなたがたのことが心配でならない。」だから、日にちのための争いはやめて、安息日でも、日曜日でも、自自分の心の中で確信を持っていけばよい。(ロマ 14:5、6)。この考えは正しいか？

**答：**聖句：「また、ある人は、この日がかの日よりも大事であると考え、ほかの人はどの日も同じだと考える。各自はそれぞれ心の中で、確信を持っておるべきである。日を重んじる者は、主のために重んじる。また食べる者も主のために食べる。神に感謝して食べるからである。食べない者も主のために食べない。そして、神に感謝する。」(ロマ 14:5、6)

聖句：「あなたがたは日や月や季節や年などを守っている。わたしは、あなたがたのために努力してきたことが、あるいは、むだになったのではないかと、あなたがたのことが心配でならない。」(ガラ 4:10、11)

この二カ所の聖句は密接に関係している。ある人は、安息日と日曜日は同じだから、一日を決めて主のために守ればよい。いちいち気にすることはない。この説は正しいかどうかは、次の 2 点にわけて説明する。

1. 「ローマ人への手紙」の「この日」、「かの日」、「どの日」は安息日を指しているのではなく、「この日」、「かの日」、「どの日」は土曜日か日曜日だけ指しているのかどうか、よく考えれば筋の通らない説であることに気づく。月曜日はこの日ではないか？水曜日はかの日ではないか？一週間の七日間はどの日ではないか？だから、この日は土曜日か日曜日だけを指して言っているのではない。
2. では、この二カ所の聖句はどんな日を指しているのか？「ローマ人への手紙」の関連聖句を見ると、「食べる」事に関係していることが分かる。「食べる」人もいれば、「食べない」人もいるのを見ると、ここは断食の日と季節を指していることが分かる。「ガラテヤ人への手紙」の第四章 10 節は「律法の日を守る」と訳されている。言い換えれば、これらの日は律法に書かれているある日で、これらの日は断食の日もあり、非断食の日もある。だから食べる問題に言及したのである。では、果たして、旧約時代のイスラエル人はこれらの断食の日があるのか？確かにあった。「イザヤ書」を通して、断食の日あったことが分かる(参考：イザ 58:3~5)。

では、簡単に例を挙げてみよう：

贖罪の日の断食(レビ 16:29~31、23:27~32)。

プリムの日の断食(エス 9:31)。

ネヘミヤ時代の七月二十四日の断食(ネヘ 9:1)。

その他の五月、七月、十月の断食(ゼカ 8:19)。

四月の断食(エレ 39:2)。

五月の断食(参考：エレ 52:12、13)。

七月の断食(参考王下 25:25; ゼカ 7:5)。

十月の断食(エレ 39:1)。

あるいは週に二回の断食(パリサイ人)(ルカ 18:12)。

以上は旧約時代のイスラエル人が律法に決められている断食の日であって、彼らはこの記念日を非常に重んじて、断食を行っている。しかし、新約時代になっても、彼らはまだ守り続けて、しかも、この日がかの日よりも大事だと主張する人もいて、即ち、「この日の断食がかの日の断食よりも大事だ。ある人はこの日に断食し、まだある人は断食しない。非常に混乱した状態である。ある人はこの日を重んじて、これを守っている」。だから、パウロは「あなたがたのことが心配でならない」と言った。また、「ローマ人への手紙」の中で、日のために争ってはならない、食べるか食べないかの問題を議論する必要もない。そこで、パウロは、「日を重んじる者は、主のために重んじる；日を重んじない者は、主のために重んじない(原文にはこの言葉もある)。また食べる者も主のために食べる。神に感謝して食べるからである。食べない者も主のために食べない。」と言った。すべて神の栄光のためにすべきである(1 コリ 10:31)。これらの問題を争う必要はなく、「生きるのも主のために生き、死ぬのも主のために死ぬ」(ロマ 14:8) 思いがあればよい。これらの者は無益で、過去のことだから、自分の心の中で確信を持って、これらの無益の日のために煩うことがない。これこそパウロの本意であり、この解釈方が合理である。



ハレルヤ、主イエス様の御名によって立職後の感想を述べさせていただきます！

主イエス様の豊かな御恵みに感謝いたします。この度、私とルデヤ執事が墨田教会の奉仕仕事を担当することになりました。これに当たり、もし何か過ちを起こしたら、捧げた燔祭は不完全になってしまうと感じるようになりました。だから、どんな物事、言葉あるいは行いなどもっと慎むべきと思いました。そして、自分はこの使命と責任にはまだ相応しくとも思いました。これからは「エペソ人への手紙」の第六章15～17節の御言葉をもって自分を励まし、勇敢に新しい奉仕にチャレンジし、努力していきたく思います。これからはどんな困難と試練に出会っても、揺るがすことがないよう、どうか主から新たな力が加えられたらと願っています。更に、先輩たちの奉仕精神を学び、神の智慧を善く用いて、墨田教会の建設と発展を目的に、奉仕において、私たちの方向と目標を失うことがないよう、畏れず心を持って神様の御旨にゆえられたいと思います。最後になりますが、どうか兄弟姉妹たちは祈りの中で、私とルデヤ執事の為に助祷して頂きたいと思います。奉仕仕事において、何か足りないところがあれば、遠慮なく指摘していただき、主の御名を栄えられますように！アアメン！

木下 先義

ハレルヤ、主イエス様の御名によって立職後の感想を述べさせていただきます！

神様の愛に感謝いたします。今度の霊恩会にて、主の導きによって、神の家のしもべに選ばれました。教会の各兄弟姉妹の愛によって、この奉仕仕事に預かることができましたが、自分にとって、執事になるとは全く考えたことはなかったし、考えられなかったのです。というのは、自分が弱いことをよく知っているし、この聖職に相応しくないと思ったからです。去年、この聖職に選ばれた事を知ってから、ずっと逃避してきました。そして、お祈りの中で、神様に、「私にはこの資格はありません。どうかこの仕事をもっと相応しい姉妹に与えてください」と求めてきました。私は祈ると同時に、兄弟姉妹と相談もしました。神様に感謝いたします。兄弟姉妹たちは私を励まし、ヨナの証をしてくれた姉妹もいました。感謝な事に、私はやっと素直に神様の遣わしを受け入れ、この聖職に臨むことができました。

願わくは、東京と墨田両教会の兄弟姉妹は私を支え、助け、私のために助祷してください。どうかエリヤを感動させた霊が倍に私を感動させ、私に力を加わり、自分の行ったすべてのことが神の御旨に合い、自分の捧げた燔祭が神様に喜ばれ、神の福音が広く伝えられ、教会が繁盛し、神を栄え、人に益を得させられるように。どうか、すべての栄光が天にいます神に帰せられますように！アアメン！

木下 文子

## 証し コラム



### — “主に導かれて” —

ハレルヤ、主イエス様の御名によってお証しします！

それは、一本の電話から始まりました。ある日、私の友達である近藤姉妹のお姑さんから電話があり、教会に行ってみませんかと誘われました。「いいよ」と返事をした事に、自分でも驚きました。なぜなら私は、宗教関係は苦手で、今までは誘いを皆断っていたからです。その日から、どうお断りしようかと悩みました。しかし、その日はやってきてしまったのです。近藤姉妹に案内され、「真イエス教会東京教会」へと出かけました。教会堂に入ると私は驚きました。私はここを探していたことに気づきました。慈しみと安らぎにとっても感動しました。主は私をここへ導いて下さったのです。その日から毎週安息日には教会へ足を運ぶようになりました。ある日、呉執事が「バプテスマを受けませんか？」とおっしゃいました。私はまだ教会に来るようになって3ヶ月にもなっていませんでしたので、私は躊躇していました。呉執事は長さではないと聖書を取り出し、心構えを説いてくださいました。そして私は決心し、5月の霊恩会でバプテスマを受けることになりました。4日に聖霊が降りました。

5日のバプテスマは海浜公園で受けることになりました。呉執事がバプテスマを施して下さいました。海から上がり、着替えに行く途中のことでした。職員の方が海を見つめ、「なんであそこは赤くなっているんだ？何をしてい

るのだろう？」と言う声が私の耳に入ってきました。主はご自身の血で私の今までの罪をお許してくださいました。なんとこの感謝なことでしょう。洗足式も終わり、私は信者となり、たくさんの兄弟姉妹ができました。両親も私がクリスチャンになることを承諾してくれました。

私は難病であり、身体障害者です。1年に1度は入院します。苦しいこと、辛いこともあります。これは主が私にお与えになった試練と信じています。いつも遠い所、お見舞いに来て下さって本当にありがとうございます。この紙面をかりて、御礼申し上げます。それから、いつも私に手を貸して下さい兄弟姉妹の皆様、本当にありがとうございます。これからもご迷惑をおかけすると思います。こんな私ですが、これからもよろしくお願い申し上げます。私は主に導かれ、「真イエス教会」の信者となれて幸せです。そして、心から主に感謝いたします。

愛は寛容であり、愛は情け深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない。誇らない。不作法しない。自分の利益を求めない。いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である（1コリ13:4～7、13）。

願わくは、すべての栄光が天にいます真の神様に帰しますように…アアメン。

和智 紀子 姉妹

Announcements  
**宗教教育**



霊恩会で歌った歌は、“献金するとき”、“わたしは明かり”、“飛べ飛べ飛べ”を幼年班といっしょにおどりをつけて歌いました。あと、少年班で“12弟子の歌”と、“新約聖書の歌”を二回ずつ歌いました。少年班の番が終わった時、とてもつかれてしまいました。

菊池 まさき

れいおん会で、歌の本番のときすぐきんちょうしました。お祈りで求めたことは、聖霊です。伊藤 まさと

これはかみさまがボクにくれたたべもの！ いう まさき



わたしは、天国はあると思います。みんながないと思っても、わたしは天国があり、神様がいますと思っています。地ごくには行きたくないです。地ごくに行くと、ゆうれいになった体から「うじ虫」という物がでてきます。みんながわるいこと（人を殺したり）すると、神様が地上に来て地球を滅ぼすので、わたしは何だかこわいです。みんなが人を殺したりしなければ、神様は地球を滅ぼさないから、みんな人を殺したりするのは止めたほうがいいと思います。天国は楽しいところで、地獄は苦しいところです。わたしは教会でお勉強をして、いろんなことを学んだりして、聖霊をもらって、天国へ行きたいです。でも、みんなが悪いことをすると、地ごくへ行きます。地ごくに行きたくないので、わたしはなるべく教会に行きます。教会ではいろんな事を勉強します。そして、いろんなことを教えてもらえるので、わたしは教会が大好きです。分からないことはちゃんと答えてくれるので、うれしいです。わたしは教会で聖霊がもらえるようにがんばります。

新井 淑恵



今回の賛美歌交流会の時、二人の生徒にピアノの伴奏をしてもらいました。これは、彼女たちにとって初めての奉仕の仕事でした。

ボクはかみさまがくれたりんごがだーいすき！ 新井 せいや



私はれいおん会するとき、三階に行って勉強しました。いっしょに勉強をした人数は、10人です。10人いたので、少しずわる所がせまかったです。私は合唱のとき、ピアノをひきました。私は、ピアノをひけてうれしかったです。なぜかと言うと、まちがえずに全部ひけたからです。

藁谷 ゆかり

わたしはすみだ教会で、5月3日のお昼休みの時間にさいごのれんしゅうを何回もしました。いくえ先生が“右手だけでひいてもいいんだよ”と言ってくれました。そして、右手だけでひきおわったとき、いくえ先生が“うまくできたね！”と言ってくれました。そのとき、わたしは心の中でうれしかったです。そして、夜ねる前のお祈りのときに、心の中で“明日はうまくできますように”と祈りました。そして、5月4日（土）がやってきました。歌の時間がはじまる時、わたしはドキドキしました。ゆかりちゃんがひきおわって、その次にわたしがひく番です。わたしはきんちょうしました。ひいているときに、一回まちがえてしまいました。わたしはそのときびっくりしました。でも、がんばりました。さいごまでひきおえたとき、うれしかったです。

近藤 夏華

今回の霊恩会は、ぼくの中の霊恩会では、一番よかったと思います。伝道者も来て頂いたり、長老も2人来て頂いたのでよかったと思います。そして、伝道者と長老の3人の貴重な証を聞かせて頂いたりして、ぼくの中では、短い期間だったけど、ぼくにとって貴重な時間だったと思うし、ぼくの中で一番よかった、大成功だと思います。これをきっかけに信者のみんなが信仰を強くしてほしいし、聖霊も受けてほしいし、信者も増えてほしいし、教会が発展してほしいと思いました。そして、来年の霊恩会も成功の内に終わってほしいと思います。

木下 裕

## ★ 助祷

そこで、まず第一に勧める。すべての人のために、王たちと上に立っているすべての人々のために、願いと、祈りと、とりなしと、感謝とをささげなさい。それはわたしたちが、安らかで静かな一生を、真に信心深くまた謹厳に過ごすためである。  
(II テモ 2 : 1 ~ 2)

### ◇東京教会◇

- ★ 東京教会の新しい会堂建設のため、心を一つにして主に祈りましょう。
- ★ 町田、千葉、八王子の家庭集会において、より多くの求道者が参加出来るよう、心を一つにして主の導きを求めましょう。
- ★ 教会の兄弟姉妹間において、より団結し、愛し合い、また、神様の栄光が表せるよう、心を一つにして主に祈りましょう。
- ★ 引き続き、和智紀子姉妹及び求道者の近藤おばさんの為、病気が完全に回復できますよう神様に祈りましょう。
- ★ 教会から遠く離れた所に住んでいる兄弟姉妹たちの為、どうか神様が彼らの信仰を守って下さいますよう祈りましょう。
- ★ 菊池恵子姉妹のご主人が長い間神経痛を患っている為助祷しましょう。どうか神様が彼の病気を癒し、また一日も早く信仰へ導いて下さいますように。
- ★ 台湾にある崎頂教会の廖月妹姉妹の為助祷しましょう。どうか神様から平安が与えられますように。
- ★ 最近体の具合が良くない陳佳怡姉妹の為助祷しましょう。どうかいち早く元気を取り戻せますように。
- ★ 中国の南京教会の会堂購入の為助祷しましょう。どうかすべてが神様の御旨に合いますように。

### ◇墨田教会◇

- ★ 教会の発展と各団契のために助祷しましょう。神様の福音が広く伝えられ、その羊が日々増えられ、主の御名が栄えられますよう、どうか神様の霊が自ら導いて下さいますように。
- ★ 墨田教会が宗教法人を申請するために助祷しましょう。どうか私たちが行おうとするすべての事が神様の御旨に合いますように。
- ★ 金曜日の夜の集会のために助祷しましょう。どうか神様の導きがありますように。
- ★ 宗教教育のために助祷しましょう。どうか神様が自ら小羊たちを養い、たくましく成長させ、将来神様に使われる器になれますように。
- ★ 今妊娠中の木下希美姉妹のために助祷しましょう。どうか神様に見守られ、元気な赤ちゃんに恵まれますように。
- ★ 横浜在住の劉常芳弟兄一家の信仰の為助祷しましょう。どうか神様の導きがありますように。
- ★ 求道者の渡辺夫婦の為、病気が完全に回復できますよう神様に祈りましょう。

## ★ 記事

- ★ 4月末から5月の初めにかけて、東京教会と墨田教会は合同の霊恩伝道会を開きました。国際連合総会は黄誌新伝道者を派遣し、今回の聖会に協力して下さいました。
- ★ 5月4日に国際連合総会は、侯恩源長老及び邵従命長老を派遣し、執事の立職式に参加して下さいました。これにより、墨田教会に先義執事とルデヤ執事の二人の執事が誕生しました。
- ★ 5月11日に、台湾にある新竹教会の責任者李迪章兄弟夫妻が東京教会を訪れました。李兄弟は私たちに“風雨の中の教会”というテーマをもって、新竹教会の設立と成長について証しして下さいました。
- ★ 東京・墨田教会の青年会は、11月2日の晩から4日の午後、仙台にいる阿部郁男兄弟一家を訪問する予定です。
- ★ 東京教会の蔡兄弟（前総務責任者）は博士の学位を取得し、6月19日に台湾へ帰国しました。

## おめでとう！

- ★5月1日、陳雅雲姉妹に男の子が無事に生まれました。
- ★5月27日、敖好婷姉妹に男の子が無事に生まれました。